

# 「富士山と食」で誘客

## 世界遺産を追い風に

サンフロント21懇話会  
富士分科会

食をつなげて観光誘客する取り組みをしている。遺産登録への大きな弾みとなれば」と期待した。

食環境ジャーナリストの金丸弘美氏が「スローフードで地域再生」を例に」として基調講演した。イタリアのNPO「スローフード協会」の活動を紹介し、大量生産ではなく、多様で小さな味覚の文化を大事にした中山間地の農家レストランが外国人観光客を呼び込んでいる事例などを示した。

パネル討論は、観光振興などに携わるパネリスト3氏が食を生かした活性化の可能性などを語り合ったほか、富士地域の取り組みへの提案も示した。

地域分科会を富士市内で開いた。約150人が参加し、「食文化と観光の融合」を目指し、環富士山フードツーリズム王国」をテーマに地域の食と観光を結び付けた地域活性化について意見交換した。

県東部の活性化策を提言する静岡新聞社・静岡放送「サンフロント21懇話会」(代表幹事・岡野光喜スルガ銀行社長)は27日、富士



地区分科会を富士市内で開いた。約150人が参加し、「食文化と観光の融合」を目指し、環富士山フードツーリズム王国」をテーマに地域の食と観光を結び付けた地域活性化について意見交換した。

— 関連記事24面へ  
北村敏広静岡新聞社  
専務は「来年に迫った富士山の世界文化遺産登録を追い風とし、食と観光による地域活性化について意見が交わされたサンフロント21懇話会の富士地区分科会  
— 27日、富士市内

# 食生かし観光活性化

## サンフロント21懇話会 富士分科会

### 地域の魅力PR強調

富士市で27日に開かれた静岡新聞社・静岡放送「サンフロント21懇話会」富士地区分科会は、食環境ジャーナリスト金丸弘美氏の基調講演に続き、「食文化と観光の融合」を目指し、環富士山フードツーリズム王国」と題してパネル討論を行い、富士山の世界文化遺産登録をにらみ、食文化を生かした観光活性化策のヒントを探った。

静岡総合研究機構の木貴之氏、旅行業レイ野村浩司主席研究員がコーディネーターを、県観光顧問の谷口せい子氏、ワインツーリズムムプロデューサーの大塚について、谷口氏は外国人観光客の来日目的が食でもあることを示し、「本物の日本食をアピールすることで食と観光のプラスの連鎖が生まれる」と期待した。



聴衆を前に意見を交わすパネリスト＝富士市内

人観光客の来日目的が食でもあることを示し、「本物の日本食をアピールすることで食と観光のプラスの連鎖が生まれる」と期待した。ワインナリーが集積する山梨県内でツーリズム活動を行う大木氏は「ワインのブランド化を図り、イベントで楽しんでもらう」と事業内容を示し、観光客に地域をよく伝えてリピートづくりをすることを紹介した。

型観光を説明した。提案として谷口氏は①ターゲットを絞る②ここならではの特徴を

出すとし、富士山の水で作った日本酒などを挙げて「富士山はここにはない強み」と地元の魅力を再発見してアピールすることを強調した。大木氏は「流行に乗らない。地域が消費されてしまつ」などと課題を示した。田淵氏は「地域内での連携、近隣の連携がキーワード」として観光客目線で受け入れを図る必要性を説いた。

### 金丸弘美さん基調講演

(食環境ジャーナリスト)



イタリアのスローフードによる地域再生について講演する金丸氏＝富士市内

サンフロント21懇話会富士地区分科会で基調講演した金丸弘美氏は、イタリアのスローフードを例に食を通じた地域再生の可能性を示唆した。

イタリアにはスローフードが文化として根付いている。歴史的な建物、農業などと密接に結びつき醸成された。その価値は、同国に多数ある世界遺産にも負けない。推進役はプラ市に本部を置くNPOスローフード協会。1980年代、ファストフードに反対した人々が提唱した。ワインのブラン

### イタリア例に可能性示唆

ド化と農村の景観を生かし、農村再生として動き出した。第6次産業のはしりといえる。少量でも地元の生産物を大切に。単品大量生産の企業方式ではなく、多様性の豊かさに重きを置く。食を中心に伝統文化を温める運動だ。

プラ市では量産品と昔ながらの手作り品の違いを子供たちに学ばせる。協会は食文化をコーディネートし、食育にもつなげる。ワインやチーズの祭典では、ソムリエが味覚のワークショップを開く。これら徹底した本物志向が、国内外からバイヤーや観光客を引き寄せるようになった。

取り組みは経済ベースでも回っている。山村の農業はもつからない、という定説は崩れた。国内でも大分や高知で芽が出てきた。土地の特色を生かし、日本ならではのスローフードを構築されたい。